

令和4年度 都城市立小松原中学校 学校評価書

(4段階評価 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要す)

目標	数値目標	評価項目	自己評価	生徒	保護者	現状分析	次年度に向けての改善策	学校関係者評価コメント	
【徳育】誠実豊かな人間性の育成	いじめ0(解消を含む)の達成	項目ごとの評価	言語環境の整備	2.6	3.3	3.2	<p>○生徒・保護者と比べ、教師の自己評価が若干低い。</p> <p>○現在、いじめの認知件数は3件(11月認知)で経過観察中である。</p> <p>○コミュニケーション能力の向上について、教師の評価が2.5と低くなっている。コロナ禍の関係で思うようにSSTができなかったことと関係があるのではないか。</p> <p>○道徳科の充実については生徒の評価が3.5と高く、毎週の道徳の授業等が充実していることを実感していることがうかがえる。</p>	<p>○コミュニケーション能力の向上について、SSTの確実な実施と継続及び、各種委員会における話し合い活動の充実を図りたい。</p> <p>○生活アンケートや教育相談アンケート結果をもとに、生徒の不安や悩み、トラブルの早期発見早期解決に努める。</p> <p>○生徒会人権宣言と絡めた活動を実施する。</p>	<p>○いじめの認知が3あったものが、1月の段階ですべて解消できたのは、学校が努力している証拠だと思う。今後も、生徒の変化に素早く気付く相談活動等を充実させてほしい。</p> <p>○SNSを通じたいじめが小学校でも発生している。中学校と連携しながら防止に努めていきたい。一小一中なので小学校から中学校へのいじめの継続が内容にしたい。</p> <p>○コロナ禍でSSTの実施が困難であったようで、先生方が道徳の授業で少しでも対人関係等の在り方を考えさせる学びをさせてくださったことが生徒の高評価に表れていると考える。</p> <p>○子どもだけでなく保護者も、親としてのあり方や家庭のしつけなどに関する学びの場を設定していただけないか。</p>
		コミュニケーション能力の向上	2.5	3.2	3.1				
		道徳科の充実	2.8	3.5	3.1				
		総合評価	3.0						
【知育】確かな学力の育成	諸テストの結果で前年度を上回る	項目ごとの評価	基礎基本の定着	2.9	3.2	3.0	<p>○基礎基本の定着については、教師の評価が若干低くなっている。</p> <p>○学習の主体性や家庭学習の取組については、生徒の評価と職員・保護者の評価に大きな差が見られる。特に、家庭学習については顕著である。家庭学習に求めるもの(意識・内容・時間)が大人と生徒で大きく異なっているのではないか。</p>	<p>○家庭学習に関する調査を行い、実態を把握する。問題点を見直し、家庭への啓発活動を行う。</p> <p>○生徒に対しては、家庭学習の意義・内容・やり方など、改めて、学活等を使い説明する。</p>	<p>○小学校においては国語科の読解力や表現力の数値が低いので小中一貫した取組ができないものか考えたい。また、家庭学習においても取り組み方や内容での連携を図りたい。</p> <p>○生徒は自身の努力を単に評価していると思う。保護者や教師は高度な判断からの考えを教育を通して説明されようと努力されていることが評価できる。</p> <p>○タブレット等端末の活用は生徒の興味関心も高く効果的であると感じる。今後は更にタブレット等を活用して探究活動を充実させ、表現力や論理的思考力を身に付けさせてほしい。</p>
		主体的に学習に取り組む態度の育成	2.6	3.1	2.8				
		家庭学習の充実	2.3	3.2	2.6				
		総合評価	2.9						
【体育】たくましく生きる心と体力の育成	(生徒生活習慣の向上)	項目ごとの評価	体力と競技力の向上	2.8	3.3	2.9	<p>○コロナ禍の影響もあり運動や行動の制限によって、外での活動が少なくなっていることも影響していると感じる。</p> <p>○家庭での生活習慣が乱れがちな状況もあり、十分な自己管理が出来ていないと、教師、保護者ともに感じているようである。</p> <p>○自己管理能力について生徒自身の評価が高いのに対して教師や保護者は低いととらえている。</p> <p>○食育については学校として計画していた取組ができていないため、職員の評価が低くなっているのではないか。</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症が5月8日から5類に引き下がることからその後の体育的活動の活性化を図りたい。また、体育大会も5月に実施されるため運動を習慣化させるのによいタイミングである。</p> <p>○家庭での生活習慣については家庭への啓発活動が必要である。生活リズムチェック週間等を設け意識づけを図る。</p> <p>○食育については、夏季休業中に家庭科の課題で弁当作りがあるため、それをきっかけに食に関して興味関心を高めていきたい。夏季休業明けには、食育に関する講義等を計画していきたい。</p>	<p>○小学生の体力についても低下傾向がみられる。小学校からの日常の体力づくりについても検討中である。中学校と連携を図りたい。</p> <p>○コロナ禍の影響で心と体の育成が困難であったことを踏まえた対策が考えられていて評価できる。</p> <p>○生徒数が少なくなっている状況で、部活動の生徒がよく頑張っていると感じる。</p> <p>○食生活については低年齢からの偏食等がみられ、肥満傾向の児童が多くなりつつある。家庭の協力を働きかける必要がある。</p>
		自己管理能力の向上	2.6	3.1	2.8				
		食育の推進	2.5	3.6	3.0				
		総合評価	2.9						
【地域貢献】ふるさとを愛する地域から	貢献の活動に励む3対3以上の地域貢献	項目ごとの評価	地域活動の積極的な発信	2.6	3.2	2.9	<p>○資源回収や地区まつり等、生徒が参加することができる活動が中止になり、生徒が地域に出ていく機会が減ったことや地域の人材を学校内に招へいするのが難しくなったことが大きく影響していると考えられる。</p> <p>○コロナの影響もあり大王小との連携について十分に意見交換できておらず、結果的に効果的な取組が行われていないのではないか。</p>	<p>○資源回収、地区まつりは関係者との調整が必要だが、実施の際には積極的な参加を呼びかけたい。</p> <p>○状況にもよるが、学校運営協議会やまちづくり協議会等と連携しながら、職場体験や職業人講話、地区公民館でのボランティア活動などを年間計画に組み込み、確実に実施していく。</p> <p>○定期の小中一貫教育合同研修会を軸に、小中職員で意見交換をし、共通実践事項を定め、連携を深めていくようにする。</p>	<p>○アフターコロナに向けて、できる活動を可能な方法で再開していくことが必要。</p> <p>○小中合同の活動を児童と生徒と一緒に考える機会を作れないものか。</p> <p>○本年度は、依然として活動の制限があったが、その中で、体育館周辺の花壇の環境整備は地域としても助かり、大変効果的であった。今後もこのような活動を広げていってほしい。</p>
		地域人材の積極的な活用	2.4	2.6	2.8				
		地域社会への貢献活動	2.8	2.4	2.5				
		大王小との連携・拡充	2.8	2.9	3.0				
		総合評価	2.7						